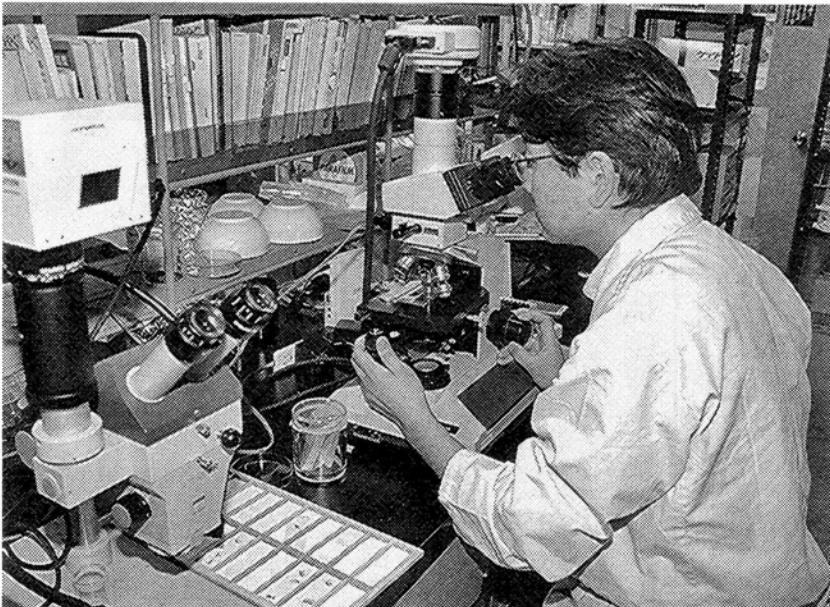
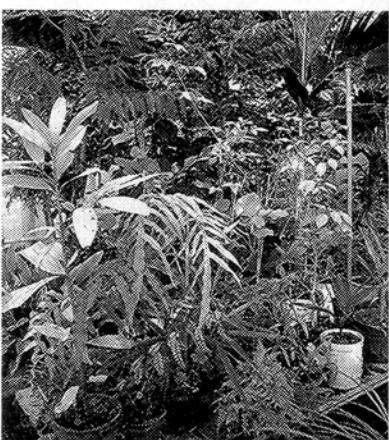


光学顕微鏡のモニターで、映し出された細胞組織の違いを調べ、メモする。機械による遺伝子分析や成分分析ではない伝統的な手法で、生葉の種を特定する。人間ならではの観察力がものをいう。成果が出たのは長年手掛けた下剤成分センノ

岐阜薬科大薬草園研究室



上光学顕微鏡で生葉を調べる酒井准教授=岐阜市の岐阜葉科大葉草園研究室で
下葉草園の温室内で栽培されている葉草=同市椿洞で



岐阜薬科大薬草園研究室
197

植物に生えた毛、導管の一部から生薬の種類を見極める。遺伝子や成分で生薬を分析する新手法が広まる中で、光学顕微鏡で観察する地道な研究をしているのが岐阜薬科大(岐阜市)の酒井英二准教授(四六)=薬草園研究室だ。

知識の探検

○●○●○●○●○● ⑬

シドを含んだセンナの研究だ。葉事法では、センナの茎や葉軸の部分はセンノシドを多く含むため、医薬品にしか使ってはいけない。わずかにセンノシドを含む茎の部分は医薬品ではなく、食品にも使うことができる。実際に、便秘解消を期待してセンナの茎をお茶に配合する食品が出回った。

顯微鏡觀察

地道に成果

子分析は使えなかつた。んは減少した。だが、今
センノシドは分量は違つ
が、茎にも含まれてゐる
し遺伝子は葉も茎も同じ
だからだ。そこで酒井准
教授らの出番となつた。
国民生活センターの依
頃を受けて、二十二三十重
西井圭次は粉末にして
たダイエット茶が出始め
た。粉になつてしまふと
植物のどの部分を使つた
のか特定はさうに難しく

マ。業者に「まかしは効かないことを示し、消費者が危機にさらされることが少なくなる」と意義を強調。その上で「遺伝子分析など新手法が出てきている中、顕微鏡での特定は派手ではないがな

なげた。その結果、現在では有害なお茶は少なくなった。

その際、メーカーに専門知識がないために、葉や葉軸が材料に混じって、口にした人が下痢を起す報告が相次いだ。葉や葉軸と茎を見分けたのに、成分分析や遺伝が混じった商品はいったるのに、成分析や遺伝など組織の特徴を丹念に調べると、葉や葉軸が混じっているものが七割も見つかった。

葉が混じっている実態を報告すると、葉や葉軸が混じった商品はいったるのに、成分析や遺伝など組織の特徴を丹念に調べると、葉や葉軸が混じっているものが七割も見つかった。

葉が混じっている実態を報告すると、葉や葉軸が混じった商品はいったるのに、成分析や遺伝など組織の特徴を丹念に調べると、葉や葉軸が混じっているものが七割も見つかった。

葉が混じっている実態を報告すると、葉や葉軸が混じった商品はいったるのに、成分析や遺伝など組織の特徴を丹念に調べると、葉や葉軸が混じっているものが七割も見つかった。